

平成29年度 第1回健康づくり審議会議事録

1. 開催日時
平成29年7月31日（月）午後1時30分～午後2時30分
2. 開催場所 保健センター2階研修室
3. 出席者
 - (1) 委員
岡本和士委員（会長）、杉山敬委員、寺町信秀委員、山村浩二委員、
前田みのり委員、岡島みさき委員
 - (2) 事務局
保健センター所長 櫻井充一、主査 牧聡子、保健師主任 太田あゆみ
4. 議題
 - 1 開会
 - 2 議題
 - (1) 平成28年度保健事業実績について
 - (2) 平成29年度保健事業実施状況について
 - (3) その他
5. 会議資料
 - ・平成28年度保健事業実績
 - ・平成29年度保健事業実施状況

6. 事業内容（要点筆記）

【司会】ただ今より、平成29年度第1回健康づくり審議会を開会いたします。私は、事務局を担当しております保健センター保健師の太田です。本日、この健康づくり審議会の司会進行を務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。事務局の紹介をさせていただきます。保健センター所長の櫻井と保健予防係の牧です。

まず、委員の変更がありましたのでご紹介させていただきます。清須保健所山村浩二様、小学校PTA代表前田みのり様、中学校PTA代表磯田奈麻実様が平成29年度より委員となりました。よろしくお願いいたします。なお本日、大島委員と磯田委員から欠席の連絡をいただいておりますのでご報告します。

議題にはいます前に、本日の審議会の配布資料の確認をさせていただきます。資料に不足等はございませんでしょうか。ありましたら、お申し出ください。

次に、審議会等の議事録についてお話をさせていただきます。

町では、情報公開の一環として、平成20年10月から町民の皆様に委員として参加していただく審議会や委員会等の議事録を町のホームページに掲載することになっております。本会もその対象になり、どのような論議がされたか要旨を抜粋して、議事録をホームページに掲載させていただきますので、ご承認ください。

また、議事録の内容につきましては、委員の皆様の確認が必要となります。後ほど、会長から議事録署名委員が指名されますので、指名されました委員2名の方と、会長の合わせて3名の方でご確認していただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

それでは審議会に先立ちまして、岡本会長よりご挨拶いただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

【会長】皆さんこんにちは。今日は非常に暑い中お集まりいただきありがとうございます。今年の夏は暑くなりそうですので、熱中症、特に室内での熱中症も多いですので、室内だからと安心せずしっかりと水分をとっていただくことを注意していただけると良いかと思ひます。今日これからの時間よろしくお願ひいたします。

【司会】ありがとうございます。それでは、これからの審議会の進行については、岡本会長にお願いいたします。

【会長】それでは、ただ今から議事の進行をさせていただきます。まず、議事録署名委員の指名ですが、前田委員と岡島委員を指名いたします。後日、事務局が本日の議事録に署名のお願いに伺いますので、よろしくお願ひします。

それでは、議題（1）の平成28年度保健事業実績について説明をお願いします。

【事務局】—平成28年度保健事業実績について説明—

【会長】保健事業実績についての説明がありましたが、今の報告について何か、コメントや意見がありましたらお願いします。

【委員】がん検診で、5歳刻みで検診料が無料だったものが、対象年齢が少なくなったのは、予算的な問題なのではないでしょうか。受診率をみると低いので、こんなに受けられていないのだと感じたのですが。

【事務局】国からの補助金もあり5歳刻みで実施していましたが、今の国の方針としましては、例えば大腸がん検診、乳がん検診なら40歳の方、子宮がん検診は20歳の方に補助金の関係ですが積極的に勧奨するとなっておりますが、本町では大腸がん検診、乳がん検診は40歳、50歳の方、子宮がん検診は20歳、30歳の方に補助としてクーポン券の配布を行っています。しかし、クーポン券の配布を縮小すると受診者数も減る状況が数字からもみ取れます。

【委員】乳がん検診についてですが、知り合いで乳がんが発見された方がいました。毎年検診を受診していて40歳以上なのでX線で検査をしていたのですが、X線では分からなくて、病院で「これはエコー検査でないと分からない」と言われたそうです。エコー検査は30代の方が対象ですが、希望者には

40歳以上でも検診料を払えばエコー検査が受けれるといいと感じますが、どうでしょうか。

【事務局】現在、30歳代の方がエコー検査で、40歳以上の方はマンモグラフィの検査を実施しています。確かに40歳の方は、併用して受けられるといいとも言われていますが、どうしても市町村の補助としては両方を受けることは難しいので、住民の方から相談を受けたときは、心配な方は医療機関で相談し、両方の検査を受けるようお伝えしています。

【委員】精密検査の結果、胃がんや大腸がんが見つかるよりも、その他の疾患が見つかる確率が多いようなので、がんでなくても他の疾患が見つかるので検診や検査を受けることは大切だとわかります。受診率がもっと良くなるといいと感じました。

【会長】そうですね、受診率はだいたい4割ほどですね。例えば大腸がん検診は、対象が40歳以上ですが、受診者のうちどの年代の方がよく受けているかなど大まかなものでもデータがあれば教えてください。

【事務局】特定健診と一緒にがん検診を受診される方が多いので、特定健診を受診されるのが60歳以上の方が多く、40代の方など若い方に受けていただきたいのですが、がん検診も同じ様に年齢の上の方が多くなっています。

【会長】どうしても若い方が少なくなりますね。本当は若い方にもたくさん受けていただきたいのですが、勤めている方も多いので受診できないという方も多いかもしれません。なので、町でどんどん啓発していただくのが大切ですね。

他はよろしいでしょうか。では他にもありましたら、また事務局のほうへお問合せください。それではこれで議題（1）についての審議を終了します。

続いて議題（2）の平成29年度保健事業実施状況について説明をお願いします。

【事務局】—平成29年度保健事業実施状況について説明—

【会長】今年新たに始めた保健事業3つについて説明がありましたが、まず1つ目に健康マイレージ事業ですが、これは愛知県が推進しておりますマイレージ事業について町での取り組みをどうしていくかということになります。方法の1つとして子どもチャレンジシートを作成し、子どもの頃から正しい生活習慣を身につけることの大切さや必要性を伝えるというのは良い視点かと思いますが、いかがでしょうか。

【委員】うちは小学生が3人いるので取り組んでいます。やはり、低学年の子の方がまじめに記録をつけています。うちは、「早寝、早起き」「朝ごはん」「歯みがき」を目標にしていますが、表にして振り返って見ることで、本人も親自身も気をつけるので良いと思います。どうしても仕事などでバタバタしていると、母親も子どものことを把握していないことが多いと感じますが、「今日は書いた？」や「今日はできたね」「これをやれなかったね」など話をしたり、お父さんに伝えたりと会話の機会になることもあるので、よその家庭も楽しく取り組めるといいなと思います。

【会長】うまくいっていいですね。ある意味これがコミュニケーションのツ-

ルになって、子どもがうまくできたかどうかは関係なく、子どものことを親が知るためのツールになるので、その点で面白い効果的なものだと思います。実際にどれくらいの方がどうなったか結果を見て、参加者が多い少ないよりもどの辺が難しいのかなど、小学生の生活について今後どのようにするとよいかなどの見直しと改善目標の焦点化にもつながって面白いと思います。よければ委員さんも他の家庭についても情報を収集してもらえると来年にむけて改善点などもわかりいいかもしれませんので、ぜひご協力ください。

【委員】孫も喜んでやっていました。祖母の立場からすると、親も生活リズムをちゃんとしないとそれが子どもに跳ね返っていくので、親たちも子どもと一緒に取り組まないといけないと感じました。その点でもいい取り組みだと感じました。

【会長】なかなか子どもだけで取り組んでいると、「どうしてお父さんはやらないの」などと言われたりするので、まず親の世代の改善を促すのに、子どもからアプローチするというのは面白い視点だと思います。まず今年一年続けて結果がどうなるか次回の会議で報告いただければと思います。

次に、健康習慣実態調査ですが、今年健康づくり計画の中間年として、中間評価をしていく時期で、成人を中心に調査をしていくとのことですが、調査する上で、無作為抽出について何か方法や工夫など考えていますか。

【事務局】対象者全体のなかで、100人中何人という割合を出し抽出することになると思います。各年代に均等にアンケートを配布する形を考えています。

【会長】調査などは、高齢者の方がだいたい回答されています。若い方は回答される方が少ないので、年齢によって配布する割合を変えるのも必要かと思います。高齢の方のほうが回答率は高いので、回答のあった方がほとんど65歳以上ということもおきかねないので、均等に意見を伺うためにも、配布数に少しグラデーションを付け、若い方に多く配布するなど工夫をされた方が、町全体の情報が得られると思います。業者の方も入ると思うので、検討されるとよいと思います。

また、中間評価の年になりますが、5年前と比べて何か変わってきたな、などインプレッションがあれば教えていただきたいと思いますがどうでしょうか。

【委員】若い人は、心の健康づくりが一番気にされるとよいと思います。最近こころの悩み、対人関係などで悩まれる方が増えています。タバコは減ってきていると感じます。アンケートも20代、30代の配布の割合を多くして回答の数が同じになるようにするといいと思います。

【会長】タバコは吸える環境なども限られてきましたね。

【委員】金額的にも、若い人には高くても吸えないという人もいるかもしれません。

【会長】若い方は、やはりコミュニケーションがうまくないというか、スマホに頼ってしまうところもありますね。

【委員】調査の前に、なぜ調査をするのか、なぜうちに調査票が来るのかという周知、広報が必要なのでは。なぜうちに調査票が来たのかと疑問があると回

答されないかもしれないです。

【会長】 広報誌等を使って事前周知をすることは大切ですね。

【委員】 なぜうちが選ばれたのかという疑問があると良い回答が出てこないとか、都合のいい回答しか出てこないかもしれません。

【会長】 そうですね。こういうことをやりますという広報を何回かすると、これなのかと結びつきますよね。この調査が町の健康づくりにつながるということを入れて広報誌やチラシで周知されていくといいですね。

【委員】 突然届くと、なぜ選ばれたのか、個人情報はどう入手したのかなど言われます。

【会長】 周知の時に無作為抽出の方法と何のためのアンケートかを示すことが大切ですね。突然届くと個人情報をどう入手したのか、情報が漏れてないかなどを疑いますよね。

歯科について変わってきたことはありますか。

【委員】 今は、関心がある方とない方の差が出てきたと感じます。家庭同士や周囲とのコミュニケーションが減ったと言いますか、孤立化しているように思います。

【委員】 マイレージ事業のように、何をしたか記録するなど、ちょっとした刺激で生活に張りが出るのではと思います。なかなか広報を読まない方もいるので、口コミで伝えていき、周りや知り合いからアンケートが来たよって言ってもらったり、こういうことやるよって広めてもらったりすると、極端かもしれないが防災なども伝わっていく。広報も自治会長が配布するわけではないので近所付き合いも減り、隣が独り暮らしかもわからないような状況もあるので、周りからこんなものがあるよと広められるとよいのでは。

【会長】 誰かがいいよと言うと波紋ができるように広がるので、口コミがいいと言われます。豊山町もコンパクトな町なので地域活動がうまく進められるとよいです。マイレージや実態調査などもモデル的に広がりができるような体制ができるといいなと感じます。いろいろな仕掛けがありますからね。

【委員】 主人の祖母が熱中症で今入院しています。これだけテレビなどでエアコンを利用し熱中症に気をつけようと言われていても、おばあちゃん世代は体に悪いと思っているみたいです。また認知症ではないが、水をちゃんと飲んでたか自分でも把握していなかったようです。ちゃんと水を飲んでね、やエアコンをつけてねと言っても意固地になってしまい「もう言わないで」という感じになっていたようです。ですが、役所などからのチラシなどで見せると素直に聞いてくれます。家族は言いすぎるのがいけないかもしれないが、こういうのがあると見てと言えるし、素直に聞いてくれるので、今はこうだよと分かってもらえるきっかけとしてもっと周知できるといいと思います。

【会長】 よくありますよね。身内が同じことを言っても「いいこと聞いてきた」と言う。それいつも言ってる事じゃんということがあります。広報としてあるものに焦点化したチラシを、新聞のチラシは見るので折り込みチラシに入れるなどするのも一つです。スーパーなどの掲示板の活用もよいかもしれませ

ん。男性は見る機会がありませんが、女性が情報を仕入れてくるので、スーパーやコンビニなどを利用してマイレージ事業や実態調査を周知するのも一つの方法かもしれません。

3つ目の母子保健事業については切れ目なく母子保健を継続していくということで、非常にいい取り組みだと思いますので、今年まず1年目なので、来年以降また評価などご報告いただければと思います。

【委員】マイレージ事業は愛知県がお願いし、県内の54市町村のご協力の元、県民みなさんの環境づくりを行っています。やる気を出すための物を作ろうということで取り組んでいただき感謝しています。県としても一緒に取り組んでいきたい。健康習慣の実態調査については、愛知県は1年早く昨年実施し、7000人を対象に調査しました。今回は督促を1度かける形で行いました。前回よりも回収が増えたと聞いています。予算の関係もありますが、例えば20歳以上の方にマイレージのチャレンジシートも同封し、回答すると特別にポイントを付けるなどをすると、教育の場の通知でもあるので必ず意識の低い方にも通知が届くようになるのでそういった工夫もできるのかと思ったりもします。また、マスコミでもメタボ検診や熱中症などをテレビなどで取り上げ、みなさんが知る機会が増えたので、だいぶ環境的にもみんなで作っていると感じます。一方で若い人はスマホやパソコンなどの利用が増え耳に入らない部分がある。意識のない人にスーパーなどで周知をとという話もあったが、愛知県は平成24年の調査で男女ともに野菜の摂取が240gと最下位、全国の平均が280gでした。その要因はなんだと翌年度県民世論調査を1700人に実施しました。1日に野菜を食べる回数が、1回またはほとんど食べないという方が男女合わせて47%ということで約5割の方が1日1回以下しか食べないという結果でした。意識の低い人ほど、ほとんど食べないという結果でしたので、意識の低い人にも伝えようということで、昨年度からスーパーや社員食堂などのご協力を得て情報を一定期間全県一緒に発信するチャレンジ事業を実施しました。町でもそういう機会の時に一緒に発信させてもらえればと思います。母子では、実績の中の例えば乳幼児の歯科健診では2歳、2歳半児の受診率がかなり下がっています。これはやっぱり所定の健診ではないということだからだと思いますが、ということはここに来る人は健康に意識の高い親が多いと考えられます。この辺も関心の差があるので受診率が他と同等になるとよいと思います。

【会長】ありがとうございます。これで議題(2)についての審議を終了します。その他のところで事務局から何かございますでしょうか。

【事務局】みなさまの健康づくり審議会の委員の任期は平成30年7月までとなっております。次回の審議会については平成30年2月頃の開催を予定しています。事前に連絡いたしますのでよろしくお願いいたします。

【会長】これをもちまして本日の議題はすべて終了いたしました。みなさまご協力ありがとうございました。今後もよろしくお願いいたします。

議事録の署名

平成29年8月23日

岡 本 和 士

岡 島 み さ き

前 田 み の り